



2023年2月10日

各位

会社名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証グロース)
問合せ先 取締役 経理財務部長 渡部 一夫
(電話番号 092-288-8470)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年5月13日付で公表しました2023年3月期の通期連結業績予想（以下、「前回発表予想」といいます。）について下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2023年3月期通期連結業績予想数値の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 11,500	百万円 550	百万円 500	百万円 330	円 銭 19.62
今回修正予想（B）	11,700	210	430	190	11.27
増減額（B－A）	200	△340	△70	△140	
増減率（％）	1.7	△61.8	△14.0	△42.4	
（参考）前期実績 （2022年3月期）	12,576	1,837	1,819	1,876	109.52

修正の理由

急激な円安の進行やグローバルでのエネルギー価格や物流費の高騰は、国内の消費不況と諸コストの増加をもたらし、当社グループにとって厳しい環境が続いております。このような事業環境の変化を踏まえ、以下のとおり通期連結業績予想の修正を行いました。

（売上高及び営業利益）

創薬支援事業につきましては、非臨床試験の主力である子会社(株)安評センターにおいて施設の拡充や人員補強を積極的に進め、受注活動も比較的順調に推移してまいりました。しかし、受注試験の規模がより大型化したため試験実施期間もより長期化し、試験完了時期が来期以降となる試験が増加したため当期完了予定の試験が想定より少なくなり、当期の売上高は当初見通しを500百万円下回る2,500百万円となる見込みとなりました。加えて、想定を上回る光熱費の高騰などが原価率を押し上げ、営業利益^(※)も当初見通しを150百万円下回る150百万円となる見込みとなりました。なお、業績予想にあたっては、直近の原価率の趨勢を考慮しております。

投資・コンサルティング事業につきましては、円安や消費不況のあおりを受け、輸入販売やEコマースを営む業態の子会社は苦戦しましたが、新規にグループに加入した子会社等が貢献し、売上高は

当初見通しを 700 百万円上回る 9,200 百万円となる見込みとなりました。一方、円安傾向の定着や商品調達コストの上昇を踏まえ価格転嫁の動きを進めましたが、その効果が当期はまだ十分に表れておらず、営業利益^(※)も当初見通しを 190 百万円下回る 260 百万円となる見込みとなりました。なお、為替レートは、対米ドルで 130 円、対ユーロでは 140 円程度を想定しております。

^(※)各セグメントに配分されない費用等の調整額を含まないセグメント利益であります。

以上の結果、連結売上高は前回発表予想を 200 百万円上回る 11,700 百万円となる見込みとなりましたが、連結営業利益につきましては前回発表予想を 340 百万円下回る 210 百万円となる見込みとなりました。

(経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益)

連結経常利益につきましては、上記の影響があったものの、前回発表予想時には想定していなかった保険解約返戻金などの営業外収益を計上したため、前回発表予想を 70 百万円下回る 430 百万円となる見込みとなりました。また、上記の見込みを前提に税金費用の見積もりを見直した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回発表予想を 140 百万円下回る 190 百万円となる見込みとなりました。

当連結会計年度の経営成績は、売上高を除き前回発表予想を下回る見込みとなりましたが、創薬支援事業における大型試験対応能力の増強及び投資・コンサルティング事業における利益率の改善を進め、着実に成果に結びつけてまいりたいと考えております。

(注) 上記業績予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上